

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

社会人選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
法学研究科	法学専攻	小論文 I (志望専修科目の基礎) 民法研究 C	不可

以下の問題について解答せよ。
所有権絶対の原則とその修正について説明せよ。

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

社会人選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
法学研究科	法学専攻	小論文Ⅱ（志望専修科目の基礎）民法研究C	不可

以下の問題について解答せよ。
権利濫用について説明せよ。

令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	法学研究科 法学専攻
試験期別	I期
試験区分	社会人選考
試験科目名	民法研究C I・II(小論文)

■出題の意図

小論文I

民法の基本原則の1つである所有権絶対の原則の説明を問う問題である。所有権については、民法全般を通して不可欠な権利・制度であり、その沿革あるいは近代のあり方を理解していることは、民法全体を学ぶ上で重要であり必要となる。こうした基本的な原則の出題は、民法の基礎的な知識を問うための有益な問題であると思われる。

小論文II

基本原則として、民法1条は、その1項で公共の福祉、2項で信義誠実の原則を定め、その3項で、権利濫用の禁止を定める。この権利の濫用とは、権利を有しているからといって、これを濫用してはいけないというものであり、民法の通則としての意義がある。すなわち、これは民法の基本理念でもあり、民法を学ぶ上では重要な原則の1つである。したがって、民法の基礎的な知識を問うための有益な問題であると思われる。

■採点のポイント

小論文I

近代民法は、封建制度における個人の権利の否定や制限を改め、私有財産を認めるに至った。民法の基本原則の1つである所有権絶対の原則は、自由な経済活動を可能にする一方で、それによる自由競争の発展などにより、経済的強者と弱者の分離が生じさせ、この原則を修正せざるを得ない状況を生み出した。こうした所有権絶対の原則からその修正といったその変遷と弱者保護の制度等の説明が採点のポイントとなる。

小論文II

まず、そもそも財産権の絶対性や不可侵性といった時代背景から、権利の濫用禁止の制度趣旨の説明が必要である。つぎに、権利の濫用の禁止は、白地規定であり、法律要件がない。したがって、これまでの判例の蓄積から、どのような基準で適用されているのか、リーディングケースとされる宇奈月温泉事件や信玄公旗掛松事件などをあげながら、説明することがポイントとなる。